

# 行政評価（外部評価）結果総括表

< 平成19年度実施計画分 >

平成21年3月

## 行政評価（外部評価）総括表について

### 1. 評価の方法

川西町まちづくり委員会条例に基づいて、町長が委嘱した「まちづくり委員」による評価。

全体会・・・・・・・・・・・・・1回

代表者会議・・・・・・・・・・・・・1回

第1小委員会・・・・・・・・・・・・・4回

第2小委員会・・・・・・・・・・・・・8回

以上の会議を開催し、評価作業を行い、評価結果を町長に報告。

### 2. 総括表の見方

節・・・・・・・・川西町のまちづくりの指針である「第4次川西町総合計画」の中で、まちづくりの4つの柱（分野別目標）となっているもの。

第1節「産業を創造しゆたかで元気なまちをつくる」                      第2節「みんなで支えあい安心して暮らせるまちをつくる」

第3節「住み良い環境を創り次世代につなげるまちをつくる」              第4節「人と地域が共にかがやくまちをつくる」

項・・・・・・・・・・4つの柱（分野別目標）に次ぐまちづくりの目標。（項の数30）

#### 【表の左側から】

政策・・・・・・・・項を達成するための具体的な目標。（政策数92）

評価結果・・・・・・・・政策の評価結果「順調」「概ね順調」「課題あり」の3段階の評価。

評価の理由・・・・・・・・政策評価3段階評価の理由を明記。

施策・・・・・・・・政策を達成するためのより具体的な目標。（施策数230）

評価点数・・・・・・・・施策の評価を「施策の方向性」「町民ニーズの反映度」「適合性」「効率性」の4つの視点で点数化したもの。

評価の理由・・・・・・・・施策評価点数化したものの理由を明記。

個別意見・・・・・・・・評価に当たって、まちづくり委員からの個別の意見を明記。

行政評価（外部評価）結果総括表（平成19年度実施計画）

第1節 産業を創造しゆたかで元気なまちをつくる

第1項 川西ブランドの創造

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
産学公による調査、研究機関の創設と川西ブランドの創造	概ね順調	平成21年度達成に向けて進捗度を高める必要がある。	(仮)川西ブランド研究所の創設	75.0	ブランドとは、作物を育てる土作りから製品になるまでの物語性を付加し生まれるものであり、単にスーパーに流すだけではいけない。今後のブランドの確立に期待する。	研究所の早期創設を実施すべきである。
			資源、情報の活用と発信	62.5	インターネットの持つ即時性を利用するとともに、川西ファンの拡大に向けた情報発信方法を構築すべきである。	ファン特典等の改善が必要と考える。
			産業間のネットワークの構築	56.3	産業面の連携については、有効な手段であるが、最初が大事であるため、状況をよく話し合い連携をすべきである。	更なる行動（アクション）を期待する。
			地場産品の開発と流通の促進	62.5	これまでの取組みにより、地場産品の価値が見直されつつある。今後の流通ルートの確立が重要と考える。	常に、食の再発見の視点から対応すべきと考える。
新たな産業づくりの促進	課題あり	コミュニティビジネスの明確なプログラムが必要であり、具体策を再考する必要がある。	コミュニティビジネスの創造	56.3	グリーンツーリズム推進事業においては、もっと中身を充実すべきである。特に食文化については、内容を再検討すべきと考える。	受入拠点の整備、受け入れ体制の充実を図る必要がある。
			新エネルギー利活用の調査、研究	68.8	新エネルギーを具体化したことは、高く評価したい。	時代の要請であり、今後更なる前進を期待する。
			起業の育成、支援	50.0	施策として、具体策が見えない。	

## 第2項 持続し発展する農業の振興

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
多様な担い手の育成	概ね順調	支援ということの本質を考え、施策に反映してほしい。	新たな担い手の育成、支援	81.3	新規就農者への、更なる支援策が必要である。	
			経営形態に合わせた担い手の育成	81.3	認定農業者の数を担い手としているが、国と乖離している現状について町としての考えを施策としてほしい。	
			支援体制の充実	56.3	時代に合わせた支援体制を考える必要がある。施策推進のための、事務事業を具体化すべきである。	
産学公連携による支援拠点づくりの促進	課題あり	町民と連携できるような環境づくりと、発展的に（例えばブランド研究所の設置）専攻科開設へつなげるような政策を検討してほしい。	置賜農業高等学校との連携強化と機能充実の促進	56.3	置賜農業高等学校に町民のニーズに対応できる技術指導を行える先生がいない現状にあり、今後更に町民と連携できるような働きかけ、協働でブランドに取り組めるような環境にすべきである。	
地域営農システムの確立	概ね順調	政策推進を図るため、今後一層の取組みを期待する。	地域営農組織の育成、法人化の推進	81.3	更なる前進を期待する。	
競争力の高い水田農業の確立	概ね順調	川西の水田農業の生き残りをかけて、今後も積極的な取組みを期待する。	環境保全型農業の推進	81.3	環境保全型農業に対する取組みは、今後更に強化すべきと考える。	時代の要請であり、更なる前進に期待する。
			付加価値の高い売れる米作りの推進	81.3	環境保全型農業と併せ、消費者の視点で米作りを推進すべきである。	
高収益型周年農業の推進	概ね順調	政策推進に向けて、開発した特産品の更なるブランド化を進めるべきである。	戦略的作物による産地づくりの推進	75.0	作物毎の経営指導も含めた支援を行い、長期的な産地作りを目指すべきである。	今、行動しながらも、次の戦略を考えることが重要である。
			畜産の振興	81.3	堆肥センターの有効利用による有機農業の確立を期待する。	農家負担軽減策も考慮すべきである。
信頼をつくる生産流通体制の確立	課題あり	「健康づくりは、食から」を原点に農家 流通 販売 経済の活性化へ繋げる体制の確立が必要である。	食の安全の確立	68.8	「安全・安心」が全国の消費者のニーズとなっており、消費者の信頼を得られる流通体制の確立が急務である。	今後、データベース化を図る等の対策により、中身の見える食の安全を確立すべきである。

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
食生活、食文化を通じた豊かな生活の推進	課題あり	産業、福祉、教育の三位一体で、各課連携して施策を構築すべきである。	食農教育の推進	68.8	学校現場における、食農教育が中心と捉えられがちであるが、社会全般の視点で推進すべきである。	学校給食の今後を検討する時期にきていると考える。
農村環境、生産基盤の整備と保全	概ね順調	今後も「農村社会」の課題と連動した政策、施策に期待する。	生産基盤の整備	81.3	各事業とも概ね順調に進捗していると考えられる。今後とも国、県との連携を図りながら、推進すべきである。	
			主体的な維持管理活動の推進	75.0	農地・水・環境保全向上活動支援事業の終了後も主体的な活動が継続するよう指導すべきである。	
森林の保全と緑化の推進	課題あり	森林活動の具体的なプログラムが必要である。	森林保全、緑化推進	62.5	県の「みどり環境税」を活用検討し、更なる保全推進を図るべきである。	

### 第3項 賑わいのある商業の振興

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
人材育成と組織づくり支援	課題あり	後継者の定着等を図るため、本来の目的にあった施策、時代に即応した施策を講じる必要がある。	後継者、人材の育成支援	56.3	優良従業員の表彰制度の廃止。新たな認定制度「マイスター制度」が必要。	
			組織づくり支援	56.3	TMO構想に基づく組織作りの支援はあったが、継続性が見られない。今後は、新たな事務事業の創設に期待する。	
商業経営への指導支援	概ね順調	目的は理解できるが、商業者が必要としている支援なのか、効果が見えない。	経営指導の強化	68.8	目的は理解できるが、商業者が必要としている支援なのか、効果が見えない。	
中心市街地の賑わい作り支援	概ね順調	中心市街地の支援は、人づくりも大切であり、ハードソフト両面の支援が必要である。	魅力ある店舗づくり支援	81.3	施策にあった新たな事業展開を期待する。	空き店舗の利活用は、斬新な企画であるが、今後地道な取り組みと、よりきめ細かな支援が必要である。
			きれいな街づくり支援	75.0	プランター設置で美しさを表現するだけでなく、地元住民、事業主の共通認識のもと、「安全、安心」も一緒に取り組むべきである。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
地場産品の活用	概ね順調	生産者、加工業者、行政の三位一体となった施策の推進が必要である。	商品開発への支援	81.3	小規模事業者新事業全国展開支援事業による商品開発は評価する。今後更なる前進に期待する。	
			地場産品の販路拡大	62.5	生産者、加工業者、行政の3者の協力的体制のもと、販路拡大等更なる前進に期待する。	川西独自の地場産品として販路拡大すべきである。

#### 第4項 ものづくりを育む工業の振興

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
企業誘致の推進	課題あり	政策を推進する上で、抜本的な改革で望んで欲しい。	誘致促進に向けた環境づくり	56.3	環境整備も誘致活動の実績も見えない現状では、大幅な見直しが必要である。	これ以上の環境整備が必要なのか、疑問を感じる。
			融資、奨励金等の支援	56.3	他市町と誘致の競合となった場合、戦力的（魅力的）な援助となるよう、具体的な支援のあり方を検討し施策とすべきである。	
企業の経営安定支援	課題あり	不足している視点の施策を補うため、早期に施策の構成と内容を見直す必要がある。	企業間の交流促進	56.3	継続した事業として、企業同志（近隣市町村）の交流だけではなく、内容のあるグローバル化した交流とすべきである。	
			各種制度を活用した経営支援	68.8	企業や事業主の活力の低下の本質を探り、行政として出来るバックアップを考える必要がある。	各種制度の情報周知と活用度を高める必要がある。
起業支援	課題あり	ブランド研究所の事業等、農、工、商が連携した施策の構成が必要である。	起業、開発支援	56.3	施策取り組みへの行政内部の共通認識が必要である。政策推進のための事務事業が整備されていない。	
			勤労者の福祉向上支援	50.0	雇用対策活動支援（政策）に組み込まれる施策と考えられる。	
雇用対策活動支援	課題あり	アンケート調査だけでは施策になっていない。本来の政策内容にあった施策を構築すべきである。	勤労者の福祉向上支援	56.3	アンケートの回収率が低い。アンケート調査の分析と実施に向けた改善が必要である。	

第5項 資源活かした観光の振興

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
ダリヤの高付加価値化とブランド力の向上	概ね順調	政策を推進するため、一層の発展的取組みに期待する。	ダリヤ栽培管理体制の充実	81.3	品種改良により、毎年新種のダリヤが誕生しているが、ブランド化に向け、管理体制に考慮が必要である。	
			ダリヤの普及促進	75.0	切花としてのダリヤも定着してきており、普及が図られている。品質向上支援等、更なる前進に期待する。	「QRコード」等を使用し、ダリヤの情報を即時に確認できるシステムを確立すべきである。
			ダリヤの産業化の促進	75.0	第1節第1項（川西ブランドの創造）との関連強化で更なる前進に期待する。	
地域資源の活用と交流の促進	課題あり	目的に対し整合性は取れているが、進捗度が低い。	ふれあいの丘の充実	68.8	老朽施設の対応とともに、ソフト面での対応も検討する必要がある。	
			地域資源のネットワーク化と活用	56.3	地域資源を観光資源に広げる必要性が急務である。	置賜全体を一つのエリアとして商品化をしている事例もあり、行政として出来ることを広く論議すべきである。。
			グリーンツーリズムの推進	56.3	受入体制等の課題を見極めて、再検討する必要がある。	山村留学で修得したノウハウを活用し、町の活性化、人的交流の面からも事業の推進を図るべきである。
観光PR活動及び推進体制の充実	課題あり	政策を実現するには、施策の内容に問題がある。	広域観光の推進	56.3	政策に見合った企画実現に向け、アイデアが必要である。施策と事業が合致していない。	川西町だけの捉え方だけでなく、置賜エリアとしての位置づけを持ち、広域観光を推進すべきである。
			情報発信、イベントの充実	56.3	企画実現に向け、観光協会と連携し、イベント等の検討が必要である。インターネット（ブログ）の充実と、きめ細かな情報の発信に更なる前進を期待する。	
			推進体制の充実	56.3	観光協会の専任職1名では、出来ることが限られ、人的資源（有償ボランティア等）の活用に期待する。また、体制の整備など活性化策が急務である。	

## 第2節 みんなで支えあい安心して暮らせるまちをつくる

### 第1項 子育て環境の充実

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
施設環境の充実	概ね順調	政策推進を図るうえで、少子化の現状、地域特性を十分に勘案し住民理解の得られる計画を提示する必要がある。今後とも継続的な取り組みが求められる。	施設の整備と効率的な運営	81.3	施策としては概ね適切であるが、少子化の現状、地域特性を十分に勘案し住民理解の得られる計画を提示する必要がある。今後とも継続的な取り組みが求められる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児施設の再編について、方向性は良いが町の具体的な方針に基づく実行が必要である。保育所と幼稚園の垣根を取り払う施設への移行など、具体的な進み具合はどうなっているのが見えない。保護者が望む施設に改変することによって理解が得られる。</li> <li>・再編計画に課題あり。各地域で子育てできる方向での検討が必要。地域の教育環境、地域の教育力の中での子育てがベスト。</li> <li>・少子化の現況に合った対応を町民に理解させるべき。</li> </ul>
子育て支援センター機能の充実	概ね順調	政策推進を図るうえで、構成する施策は、各々有効であるが事業間の整合性を再検討し、さらにニーズに対応出来るよう効率的な事業展開と継続的な取り組みが求められる。	相談体制、情報提供の充実	81.3	施策としては概ね適切であるが、気軽に相談や情報を受けられる窓口が必要と考えられる。	
			交流と遊びの場の提供	81.3	施策としては概ね適切であるが、子育て支援センターの場所やスペースに問題があると考えられる。	・当面、町の生きがい交流館をオープンに活用できないか。
			地域子育て団体等との連携	81.3	施策として概ね適切である。今後も町民ニーズに充分応えられるように手法を講じられたい。	・出前保育での交流は継続すべきである。
地域子育ての充実	概ね順調	<p>施策の構成としては、母子保健、児童虐待防止など保健・福祉側からの地域子育てに対応する視点が不足している。また、子育て支援センターの地域子育てに対する関係性が乏しい。</p> <p>再掲となる事務事業、施策についても、政策及び施策としての位置づけを明確にするため、掲載すべきである。政策推進を図るうえで、不足している視点の施策を補うため、早期に施策構成の見直しが必要と思慮される。</p>	子育てサークル、託児ボランティアの育成	81.3	施策として概ね適切である。しかし、自主自立については困難なものと考えられ、粘り強く継続した支援を講じられたい。	・生涯学習グループ内の事務分掌について認識を一致させる必要がある。
			ふれあいの場、遊びの場の空間づくり	75.0	施策としては概ね適切であるが、放課後子ども教室の促進について手法を講じられたい。	・月に数回では意味がないのではないか。
			放課後児童の健全育成	68.8	施策としてニーズの反映度と効率性に課題がある。地域によっては放課後児童クラブがないため学区を越境してサービスを受けている場合があり、各地区で実施されるよう手法を講じられたい。	・町の委託は社会福祉協議会1ヶ所である。一部実施の状況はあるものの各地区でも普及すべきでないか。



## 第2項 元気づくりの推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
元気づくり活動の充実	課題あり	関連する事業との連携、団体育成等課題が多く、政策を推進しより効果的なものとするために町民ニーズに対応した施策の再検討が必要である。	健康体力づくりの推進	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。施策構成が食にだけこだわっている事業になっていると感じられる。運動や健康チェックなどを含め社会体育部局との協力、連携が必要と考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯スポーツ等、他課との連携</li> <li>・世の中のニーズと町民のニーズ一致しているのか。</li> <li>・町民全体の健康向上が何より大切。大いに推進すべきである。</li> </ul>
			元気づくり団体の育成支援	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。施策構成が食生活改善推進にかかるもののみとなっている。元気づくりに関係する団体の組織化に取り組む必要があると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高血圧症や脳血管疾患での死亡が多かったことから減塩運動を中心に行ってきたが、今後はダイエットや子供の食育（スナック菓子やファーストフードからの脱却）をどう進めていくか食改に求められている。</li> <li>・多くの町民が関心し、参加するように推進すべき。</li> </ul>
健康づくりの推進	順調	政策推進を図るうえで、今後とも継続的な取り組みが求められる。	指導、相談体制の充実	81.3	施策としては概ね適切であるが、すべての町民が受診されるように周知を講じられたい。	
			保健事業の推進	100.0	施策として適切であり、今後とも継続した取組みを講じられたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくりのフォローは元気づくりの方で充実してはどうか。</li> <li>・町民負担をなくす。</li> </ul>
生活習慣病予防と感染症予防の推進	概ね順調	政策推進を図るうえで、受診率の向上、指導の充実等、今後とも継続的な取り組みと効率的な運用を図られたい。	生活習慣病予防の推進	81.3	施策としては概ね適切であるが、受診率の向上、指導の充実等、今後とも継続的な取り組みと効率的な運用を図られたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気づくりに組み入れては。</li> <li>・若年層から指導が大切。</li> </ul>

### 第3項 健康・医療・福祉・介護の連携

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
健康、医療、福祉、介護の連携強化とサービスの向上	課題あり	健康福祉センターは、十分に機能しているとは考えにくく、また地域包括支援センターは、住民利用者のニーズを十分に調査し施策の再構築を必要とする。政策推進を図るうえで、施策、事務事業とも一体的な見直しが必要である。	健康福祉センター機能の充実、整備	43.8	施策としては、町民ニーズを反映されているとは考えにくく、また効率的に進められていないと感じられる。現状、ニーズを把握した一体的な見直しが必要と考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画は作成したものの現実とのギャップが大きい。医療部分を役場保健職員がまかない、健康診断と組み合わせるなど、計画の変更が必要である。止めてしまうことには反対である。</li> <li>・機能していない施設を評価するのは、困難。</li> <li>・施設、機能ともに充実しておらず、事業の推進は難しいのでは。</li> <li>・遠い将来の施策に思える。</li> <li>・町独自の健康福祉センターの設けが望ましい。</li> </ul>
			地域包括支援センターの創設	81.3	施策としては概ね適切であるが、今後需要が増加することが見込まれるため、十分な対応を図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理の元締めの機構であるから、資格ある職員で対応すべき。民間に移行させることだけがサービスに繋がらない。</li> </ul>

### 第4項 介護予防と支援体制の充実

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
地域包括支援体制の構築	概ね順調	政策推進を図るうえで、施策の構成を精査し今後とも継続的な取り組みが求められる。	地域包括支援センターの創設	75.0	施策として概ね適切であるが、将来像を早急に町民に示す必要があると考えられる。	
			介護予防の推進	81.3	施策として概ね適切である。今後も継続した指導が求められる。	
			継続的な介護支援	81.3	施策として概ね適切である。今後も継続した支援が求められる。	頼りにするのは医療費があるから。さらに緊密な連携が必要。
介護保険制度の適正な運用	順調	現行の施策で有効性は確保されているが、さらに効率的なものとするために施策の検討を図るとともに、今後とも継続的な取り組みが求められる。	在宅介護サービスの充実	81.3	施策としては概ね適切である。今後も更なる充実を図りたい。	
			施設介護サービスへの支援	93.8	施策として適切である。今後も更なる充実を図りたい。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			家族介護者への支援	81.3	施策としては概ね適切であるが、介護者のニーズに応えられるよう継続した支援を講じられたい。	・経済的な問題で施設に入所できず在宅介護となっている家庭もあり、介護者へのフォローが必要である。 ・家族が介護病とならないようサポートすべきである。

## 第5項 地域医療の推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
地域医療環境の充実	概ね順調	政策推進を図るうえで、川西診療所の利用形態の将来プランを明確化する必要がある。	公立置賜総合病院との連携強化	81.3	施策として概ね適切である。今後も更なる充実を図られたい。	・医師の増員による患者の待ち時間の短縮重要。
			川西診療所の機能充実	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。川西診療所の今後のあり方を町民に示す必要があると考えられる。	・サテライト診療所としての役割分担が行われていないように見受けられる。患者数が年々落ち込んでいる。 ・医師確保と住民ニーズ、財政負担のバランスをどのように改善していくのか。 ・医師不足や患者の減少が続いているのであれば、縮小化の考え方もあるのか。 ・川西診療所の必要性、本当にニーズがあるのか。 ・デマンド交通等を工夫して公立置賜総合病院との密着性を。 ・医師の確保を完全にして診療すべきである。
			町内医療機関との連携	81.3	施策として概ね適切である。今後も定期的に情報交換し、安定した健康管理が望まれる。	
			医療給付の適正な運用	100.0	施策として適切であり、今後も適正な運用が求められる。	

## 第6項 高齢者の社会参加の促進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
高齢者が活躍できる場の創出	概ね順調	施策の内容として、既存事務事業（高齢者大学、老人クラブ活動、シルバー人材センター等）の見直し、再構築によって、政策目的に合致した実施内容とすることが必要である。	学習機会の提供	81.3	施策としては概ね適切であるが、価値観の多様化に伴って、就労機会、ボランティア活動、カルチャースクール等の、情報提供と交流機会の創出が必要と考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者であっても知的欲求はある。国家資格への挑戦などもあってよい。</li> <li>・活動できにくい高齢者の参加を促進する方法があればよい。</li> <li>・他世代間交流の場を設けるように。</li> </ul>
			主体的活動への支援	81.3	施策としては概ね適切であるが、個別的なサークル支援ばかりでなく、更なる世代間交流の場の設定が望まれる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サークル活動の推進への支援は賛成。</li> <li>・高齢者を対象とした、活動できるサークルの結成が望まれる。</li> </ul>
			就労機会の拡大	81.3	施策としては概ね適切であるが、更なる就労機会の拡大が望まれる。	

## 第7項 ノーマライゼーションの推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
福祉相談機能の充実	概ね順調	関係機関、地域との連携を強化し、更なる充実を図られたい。	いじめ、虐待防止ネットワークの整備	87.5	施策としては概ね適切であるが、関係機関、地域との連携を強化し、更なる充実を図られたい。	
地域社会福祉の充実	概ね順調	政策推進を図るうえで、今後とも継続的な取り組みが求められる。	生活保護、母子家庭等支援	93.8	施策として適切であり、今後も民生児童委員と連携による確実な対応を図られたい。	
			福祉関係団体との連携強化	81.3	施策として概ね適切である。更なる連携強化を図られたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町自体の福祉に対する基本姿勢をたてるべきである。</li> </ul>
			地域支援体制の充実	81.3	施策としては概ね適切であるが、民生児童委員協議会のみならず、他の支援体制の拡充が望まれる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこの誰が民生児童委員なのかかわからない。</li> <li>・他団体との連携が絶対必要である。NPO、ボランティアの活動等。</li> </ul>

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
障がい者の生活支援サービスの充実	課題あり	障がい者への住民理解の高揚のため有効な施策を早急に検討し事業展開する必要がある。住民理解の高揚のため、今後一層の進展を図られたい。	障がい者への住民理解の高揚	62.5	施策としてニーズの反映度、適合性、効率性に課題がある。障がい者への住民理解の高揚のため、有効な施策を早急に検討し事業展開する必要がある。住民理解の高揚のため、今後一層の進展を図られたい。	・特に知的障がい者に対する住民の違和感（差別意識）がまだまだ払拭されていない。コロナー希望が丘利用者との交流事業を積極的にこなうべきだ。まずは役場職員から行ってはどうか。 啓蒙事業より、交流事業の方が効果があるのではないかと。 ・事業展開がなかった。 ・第2期川西町障がい福祉計画の周知がされていない。
			在宅生活支援の推進	81.3	施策としては概ね適切であり、今後も更なる支援充実を図られたい。	・全町民が認識を深めることが大切。
自立支援、社会参加の促進及びバリアフリー化の推進	概ね順調	政策推進を図るうえで、バリアフリー化、支援の継続など、さらなる事業展開が必要であり、今後とも継続的な取り組みが求められる。	自立支援、社会参加の促進	87.5	施策として概ね適切である。今後も継続した支援を講じられたい。	・財政的問題もあり公共施設においてもバリアフリー化が進まない。また、事業としては小規模作業所のための議論になっている。

## 第8項 危機管理体制の確立

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
危機管理に対する意識の向上	概ね順調	早急に具体的な事業展開に取り組むべきである。	危機事態の情報収集及び調査、研究	81.3	施策としては適切であるが、防災計画作りが遅々として進まなかった。あらゆる災害に備え計画を早急に整備すべきである。	
災害予測対策の推進	課題あり	政策推進を図るうえで、早急に新たな総合防災計画の策定を図り、具体的な事業展開に取り組むべきである。	情報受発信体制の強化	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。構成する事務事業が不足しているため、早急な構築を図られたい。	・町と住民との情報受発信体制が確立されていない。住民への携帯メールサービス（希望者）を取り組んでどうか。 ・情報収集のテスト等実施すべき。
			教育、訓練の充実	81.3	施策としては概ね適切であるが、今後危機事態に対する町民への意識向上を徹底されたい。	・危機事態に対する町民への意識を徹底させること。 ・危機管理体制の早急な構築が必要

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
危機管理体制の整備	概ね順調	政策推進を図るうえで、新たな総合防災計画の策定を図るとともに、町全体の組織化を早急に確立すべきである。	自主防災組織の育成	81.3	施策としては概ね適切であるが、まだ全地区においての自主防災組織化がなされていない。早急な組織化に向け支援を図りたい。	・地区の組織化から町全体の組織化を早急に確立すべき。
			総合防災体制の整備	81.3	施策としては概ね適切であるが、まだ完成していないように見受けられる。体制の確立に向け早急な事業展開が望まれる。	・組織化し、常日頃の訓練が出来るように体制づくり必要。

### 第9項 防犯・交通安全の推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
生活安全に向けた体制整備	概ね順調	政策推進を図るため、生活安全条例に基づく継続的な取り組みが求められる。	関係機関との連携、強化	81.3	施策として概ね適切である。生活安全条例に基づく継続的な取り組みが求められる。	
防犯活動の推進	概ね順調	政策推進を図るうえで、防犯活動に係わる町内での活動の全体像を把握し町民の意識高揚を期待できる事業展開が必要である 今後とも継続的な取り組みが求められる。	防犯意識の高揚	81.3	施策としては概ね適切であるが、構成している事業が不足している。関連事務事業を整理し、成果を把握され、防災意識の高揚が期待できる事業展開を講じられたい。	・事業がイベントのみにとらわれているが、日頃から実施している見守り隊の活動は効果を発揮している。子供の見守りだけでなく徘徊高齢者を対象に見守り隊を作ることで防犯意識の高揚につながるものとする。 ・関係者のみの参加でなく、町民全体が参加し意識高揚が必要。
			防犯設備の整備促進	81.3	施策としては概ね適切であるが、防犯灯の設置が各地区に任せられているため、地区と地区の境目が手薄になると感じられる。地区に任せただけでなく全町的という視点で整備を講じられたい。	・安全安心な町民生活を守るため最重要。

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
交通安全活動の推進	概ね順調	政策推進を図るうえで、今後ともさらなる安全性の確保に向け事業継続を図りたい。	関係機関との連携、強化	93.8	施策として適切であり、安全な交通社会を構築する必要から、一層の関係機関との連携を図りたい。	
			交通安全教育の推進	93.8	施策として適切であり、今後も町民全体が参加される対応を講じられたい。	
			交通安全施設の整備促進	81.3	施策としては概ね適切であるが、町民要望の交差点信号の設置等について早急な対応を講じられたい。	

#### 第10項 消防・救急体制の強化

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
消防体制の充実	概ね順調	消防団再編 施設設備の整備等 課題解決に有効な事業展開を図られた。	火災予防の推進	87.5	施策としては概ね適切であるが、今後高齢者や弱者に対する指導を強化されたい。	
			消防、防火施設の整備	87.5	施策としては概ね適切であるが、消防施設、機器等の早急な整備改善を図られたい。	
			消防活動の充実	81.3	施策としては概ね適切であり、継続した研修、訓練の充実を図られたい。	・貸与品整備が遅れたことは、業務の安全性を含め重大な問題である。 ・職員の訓練研修はもとより、自治会員にも研修必要である。
			消防団の再編と自主防災組織との連携	75.0	施策としては概ね適切であるが、地域消防団の機動力が低下している現状のもと、消火栓消防隊等、地域の消防力を高める方策が必要と考えられる。	・消防団員600名体制を堅持する必要があるか検討すべき。また、消防団員の自主防との係りを明確にすべき。 ・町中心における自主防災組織が有名無実ではないか。

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
救急体制の強化	概ね順調	政策推進を図るうえで、今後とも継続的な取り組みが求められる。	応急活動の推進	87.5	施策としては概ね適切であるが、各団体の役員等に限らず、広く町民全体の指導推進が必要と考えられる。	
			メディカルコントロール体制の強化	87.5	施策としては概ね適切である。町民の安全のため、今後一層のメディカルコントロール体制の強化が望まれる。	
消防、救急体制の広域連携等の調査研究	概ね順調	県の消防広域化計画に基づき、早急な調査検討を行う必要がある	広域連携等の調査、研究	81.3	施策としては適切であり、県の消防広域化計画に基づき、早急な調査検討を行う必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町で何が問題になっているのか教えてほしい。</li> <li>・消防の広域化が叫ばれている中、町民の安全性を重点に考えるべきである。</li> </ul>



第3節 住み良い環境を創り次世代につなげるまちをつくる

第1項 計画的な土地利用の推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
歴史や文化など地域資源を活用した中心市街地づくりの推進	課題あり	視点の明確化と具体的事務事業の効果的な実施が必要である。 中心市街地の考え方に住民と行政の認識の相違が見受けられる。今後共通の認識を持ちながら政策を推進することが不可欠である。	町民と行政の協働による街づくり推進体制の構築	62.5	進行途上ではあるが、町民、地区民と一体した体制には、まだ遠く感じる。	
			街づくりデザインの確立	56.3	コンセプトを明確にし、デザインを構築する必要がある。	
			中心市街地の賑わいづくりの支援	56.3	商工業者の積極的な参画を促すような、施策を考える必要がある。	中心市街地のあり方を根本的に見直す時期であり、総合的なプロデュースが必要である。
			羽前小松駅の多角的利活用の推進	56.3	羽前小松駅の利活用にあたっては、根本的な課題の解決を早期に行う必要がある。	羽前小松駅の必要性、重要性が小松地区だけのものになっているように感じられるため、全町的なものにすべきである。
			都市計画の見直し	62.5	中心市街地形成に向けた都市計画のあり方に焦点を絞って、都市計画の見直しを進める必要がある。	
			ダリヤ園、内山沢一帯の土地利用の構築	課題あり	施策目標のビジョンが見えない。施策に具体的な柱が欠けている。 政策の目的と整合性がとれていない。 内山沢一体の土地利用に関し、桜の集中的な植樹により、シンボル化を図る必要がある。	ふれあいの丘の整備
協働の杜の創造	62.5	植樹(さくら)の管理体制の強化充実を図るべきである。また、組織が発足したばかりであり、今後に期待する。				
下小松古墳群周辺の土地利用の構築	課題あり	目的が見えない。将来に渡ってのビジョンを明確化すべきである。	古墳、里山、山野草(植生)を活かした憩いと学習の丘の整備	56.3	実情を認識し、一つ一つの課題解決に向けた、活動に期待する。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
公立置賜総合病院周辺の土地利用の構築	課題あり	町としてのとらえ方の整理と大塚地区の整合性を早急に検討すべきである。 基本的指針を策定するとともに中長期的な計画を早急に作成すべきである。	広域的視点に立った土地利用の推進	62.5	経済活動がスピードを進める中、行政側の対応が遅いと考え。町民（住民）の利益を考え、基本的指針を早急に提示すべきである。	
			医療、住宅、商業が融合したまちづくりの推進	62.5	経済活動がスピードを進める中、行政側の対応が遅いと考え。町民（住民）の利益を考え、基本的指針を早急に提示すべきである。	
町内各地区の特性を生かした土地利用の推進	課題あり	各地区の地域デザインとコンセプトを明確にする必要がある。 各地区計画を推進する具体的な事務事業の設定が急務である。	地域資源の発掘と地域デザインの確立	56.3	各々の地域で充分ワークショップ等を実施するとともに、それを進める町側（事務方）の積極的な支援が必要である。	
			相互連携による土地利用の推進	56.3	施策の内容が抽象的で理解できない。	
土地利用の適正管理と地籍調査の推進	概ね順調	施策の構成内容は有効であり、更なる前進に期待する。	川西町国土利用計画に基づく土地利用の適正な管理運営	68.8	今後も、法に基づいた適正な管理を執行すべきと考える。	
			地籍調査の推進	68.8	地籍調査事業は、今後とも進めるべきであり、前進に期待する。	

## 第2項 交通基盤の整備

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
道路交通基盤の整備とネットワーク化の促進	概ね順調	進捗状況が低いと国、県への一層の働きかけが重要である。	幹線ネットワークとしての縦軸と横軸の整備促進	68.8	花丘町下小松線整備事業の推進により、南北縦軸の整備は進んでいると考える。今後主要地方道高畠川西線の整備の推進を図るべきである。	国、県に対し、優先順位を上げる働きかけを強く行うべきである。
			幹線の結節による広域ネットワーク化	68.8	幹線ネットワークの整備にあわせ、全町民の利便性を確保するため、各道路整備事業を進めるべきである。	国、県に対し、優先順位を上げる働きかけを強く行うべきである。

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
生活道路等の整備促進	概ね順調	町道整備計画に基づく整備が重要と考える。	町内道路の整備	75.0	町道整備計画に基づいた、優先順位を明確にすべきである。	町民等しく利便性が確保される整備を図るべきである。
			安全施設の整備促進	75.0	今後も、適正な整備を進めていく必要がある。	
			維持管理体制の構築	75.0	多種多様な体制づくり（住民参加型等）を検討すべきと考える。	総合的な事業化が必要と考える。

### 第3項 生活交通の確保

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
町民の視点に立った生活交通システムの構築	概ね順調	高齢化社会における諸問題に対しての一つの対処策として大きな一歩と考える。 利用者、利用率を把握して満足度の高い交通システムにすべきである。	デマンド型乗合交通システムの構築	75.0	利用者の声、利用率を調査し、町民利用の満足度を増す、工夫を必要とする。	
鉄道の利用拡大の促進	課題あり	利用者数、利用率は年々減少傾向にあり、本町の問題としてとらえるだけでなく置賜エリアの中で、考える必要がある。	米坂線及びフラワー長井線の利用拡大	56.3	「イベント列車」等の取り組みを評価する。効率的な事務事業の構築が検討課題であり、行政として何が出来るか、再考の上、最大限の努力を期待する。	置賜の中の米坂線、フラワー長井線として位置づけ、対応を考えるべきである。
			フラワー長井線を支える仕組みづくり支援	56.3	根本的な支援策が見出しにくい状況であり、一層の事務事業の工夫が必要である。	

### 第4項 高度情報基盤の整備

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
高度情報化に向けた環境整備と人づくりの推進	課題あり	現代社会における高度情報化については、刻々と技術革新が進んでおり、計画策定とともに迅速な整備の促進を図る必要がある。	地域情報基盤の整備促進	68.8	平成19年度終了の事業で計画策定に至っていないことはなぜか、次年度以降の早期の計画策定を強く要望する。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
高度情報基盤を活用した地域情報の受発信と多面的な活用の推進	課題あり	地域情報化計画を策定し、計画と連動した事務事業の設定が必要である。	情報ネットワークの形成	68.8	電子化を推進することは、当然であるが、高齢者を含め一般町民の理解度が低いと感じられるため、今後町民に対する対策を講ずるべきと考える。	

## 第5項 生活環境の整備

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
生活排水対策の推進	概ね順調	助成のあり方や要望に応えられる仕組みづくりを行うべきである。	公共下水道の計画的な整備	93.8	今後も財政状況等を勘案し、計画的に事業を推進すべきである。	
			合併処理浄化槽の設置促進	81.3	今後も財政状況等を勘案し、計画的に事業を推進すべきである。	住民の要望に応えられる仕組みづくりが必要である。
			公共下水道、農業集落排水施設の利用促進	81.3	利子補給制度の活用を促進し、未接続世帯の計画的な加入の推進を図るべきである。	
			河川、水路の美化、浄化活動の促進	75.0	市街地排水の改善、浄化活動に向けた取り組み指針の明確化が必要である。	
安定した水道の供給	課題あり	内部課題（老朽管、経営改善、広域化）に早急な取り組みが必要と考える。	水道施設の計画的な整備と維持管理の推進	81.3	老朽管の計画的な布設替えとともに、有収率の低い原因究明を行い、水道事業の経営改善が必要である。	
			水道業務の広域化、共同化の調査、研究	68.8	水道業務の広域化、共同化に向けて、更なる調査、研究を行う必要がある。	
住環境の整備	課題あり	政策実現に向けた事務事業を適正に実施すべきである。	地域住宅計画の策定	56.3	早急に地域住宅計画を策定すべきである。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			潤いのある市街地形成の検討	56.3	施策の内容と構成する事務事業が合致していない。見直しを要する。	
克雪及び利雪の推進	概ね順調	雪冷房以外に政策推進を図る事務事業の設定を行うべきである。	除雪、排雪体制の構築と防雪、融雪対策の促進	81.3	除雪計画に基づく、計画的な除雪の執行を期待する。	歩道除雪・交差点除雪の排雪体制の見直しを行うべきである。
			雪の有効利用	81.3	雪冷房システム以外の施策の検討が必要である。	

## 第6項 環境の保全

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
地球環境の保全	概ね順調	町民に対し、PRの方法を工夫し、わかりやすい表現（具体例を示し）で情報を提供し、政策の推進に努めるべきである。第6項「環境の保全」に係る政策全体の構成について、再考する必要がある。	省資源、省エネルギーの推進	81.3	環境基本計画との運動が不可欠であり、町民に対し、更なるピーアールを行うべきである。	
			環境マネジメントシステムの推進	75.0	町民が身近な問題として、捉えておらず今後、町民に向け環境マネジメントシステムISO14001の情報発信を行うべきである。	
環境教育の推進	課題あり	施策を担保する施策及び事務事業の再構築を行うべきである。	環境教育の推進	62.5	必要性は理解するが、具体的活動が見えないため、今後住民を巻き込んだ環境教育の実践活動が必要である。	
			団体、人材の育成	62.5	住民を巻き込んだ団体、人材育成の実践活動が必要である。	
良好な環境保全と次世代への継承	概ね順調	施策の構成中「快適な生活環境の創造」は政策目的と合致していないと考える。また、構成する事務事業についても再構築すべきである。	ごみの減量化の推進	87.5	町民と行政が共通の認識を持ち、年度別数値目標を掲げ、段階的な事業の推進が必要である。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			豊かな自然環境の保全	81.3	町民と行政が共通の認識を持ち、事業を推進すべきである。	
			快適な生活環境の創造	50.0	施策にあった事務事業を構築すべきである。	
新エネルギーの調査研究と利活用の推進	課題あり	政策目的を達成するため、施策を構成する具体的な事務事業を構築すべきである。	自然エネルギーの利活用	81.3	雪以外の利活用について、調査研究が必要と考える。	
			リサイクルエネルギーの利活用	56.3	今後においても、リサイクルエネルギーの利活用の具体的な調査研究を行うべきである。	
			クリーンエネルギーの利活用	56.3	今後においても、クリーンエネルギーの利活用の具体的な調査研究を行うべきである。	

第4節 人と地域が共にかがやくまちをつくる

第1項 ダリヤのまちづくりの推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
ダリヤ(花)を育み、町を愛でるまちづくりの推進	課題あり	政策推進を図るため、構成する施策の再検討再構築を行い、実効性のある政策とすることが望まれる。	(仮)花づくり銀行の創設	62.5	施策としてニーズの反映度、効率性に課題がある。事業として何も展開されず、早急な取組みが求められる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>銀行を創設するには人・物・金が必要である。花の苗の提供、栽培技術の講習会を通年的に行うNPOを育てることが大事であり、そのための資金をどうするのか考えるべきである。例えば「花咲スポンサー」を見つけるとか、全国に呼びかけて資金を集めるとか、動かなければ始まらない。</li> <li>川西町で花といえばダリヤをイメージする。ダリヤ園で販売するのみでなく、各地区に配布し栽培管理等の習得をさせ、一般化してからの実施が良い。</li> </ul>
			花いっぱい運動の推進	81.3	施策としては概ね適切であるが、さらに町民参加が得られるよう図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区公民館主体で、自治会長、老人クラブ、婦人会等の組織で推進しているが、一般、町民全体が参加する様にするべき。</li> <li>道路沿いなど人目に付く場所の花壇を管理している団体、個人を表彰する等、奨励する方法を。</li> </ul>
			ダリヤロードの構築	75.0	施策としては概ね適切であるが、構成する事務事業を再検討し、実効性のある施策とされたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>現に町内の一部分に植栽されているが、ダリヤ公園迄の主道に植栽の拡大をはかるべきである。</li> <li>道路沿いなど人目に付く場所の花壇を管理している団体、個人を表彰する等、奨励する方法を。</li> </ul>
			花による景観づくりの推進	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。構成する事務事業を再検討し、実効性のある施策とされたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「花づくり銀行」との組み合わせを考えてもらいたい。桜の植樹の効果も評価すべきであり、遊休地や耕作放棄地にこだわる必要はない。花によって全体的に景観が良くなることを考えるべきである。</li> <li>一部分の地区で見られる道路わきの花壇どまりであり、遊休地や耕作放棄地の推進はなされていない。道路沿いなど人目に付く場所という視点が必要。</li> </ul>

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
さくらの丘づくりの推進	概ね順調	個々の施策のさらなる推進を図り明確な全体像の見える政策とするべきである。	「協働の杜」の創造	75.0	施策としては概ね適切であるが、植栽された桜が順調に育っているとは言えない。更なる管理育成が望まれる。また、「協働の杜」のビジョンが示されておらず、早急な事業展開を講じられたい。	・植栽した桜がすくすく育っているとはいえない。病虫害への対応や追肥などの管理を強化すべきである。また、枯れかかっている木は植え替えるべきである。 ・「杜」は今すぐ出現するものではない。桜の木の配分も全く計画性がなく希望の地区に配り、その管理の結果が見えず、植栽すれば桜が育つものではない事を知るべきである。
			地区ごとのさくらの名所、丘づくりの推進	75.0	施策としては概ね適切であるが、植栽された桜が順調に育っているとは言えない。更なる管理育成が望まれる。また、「協働の杜」のビジョンが示されておらず、早急な事業展開を講じられたい。	・各地区毎の植栽箇所や本数、生育等の現況を町民が承知し、植栽に参加出来る様に対応すべきである。ボランティアや見回り隊だけでは限りがある。

## 第2項 文化まちづくりの推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別評価
川西文化の次世代への継承	課題あり	町民の文化財保護意識の向上、文化財の保護・整備、町内外への情報発信をさらに充実したものとし、今後とも継続的な取り組みが求められる。	歴史的、自然的文化財の調査、保護及び学習プログラムの提	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。町民の文化財保護意識の向上、文化財の保護・整備、町内外への情報発信をさらに充実したものとし、今後とも継続的な取り組みが求められる。	・資料館の運営を保護協会にまかせ、入館収入で委託してはどうか。 ・文化財保護と継承が危ぶまれていると思う。月～金の閉館はなく土、日の限られた時間のみであり、保護協会員も減少している。町民の理解と関心を持つようにすべきである。
			地域文化の継承と活用	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。町民の文化財保護意識の向上、文化財の保護・整備、町内外への情報発信をさらに充実したものとし、今後とも継続的な取り組みが求められる。	・地域文化の継承は民間レベルの問題であり、役場としてはいつ・どこで・どういう祭りやイベントがある等の情報発信が役割と思う。
			下小松古墳群を核とする憩いと学習の丘の整備	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。古墳公園の整備に着手できないとしても、トイレの整備は必要であり、花丘町下小松線道路整備と相まって古墳まで	・国指定文化財のPRや、町民全体に参加できるイベント等の開催必要。(春、夏、秋等の)



					の入口道路の整備方針を示されたい。	
--	--	--	--	--	-------------------	--

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
芸術文化の発信と川西文化の創造	概ね順調	政策推進のため 各拠点のさらなる有効利用、団体・人材育成を推進し継続的な取組みが求められる。	人材、団体の育成支援	81.3	施策として概ね適切である。今後も継続的な取組みが求められる。	・町の文化団体には無料にて開放すべきである。
			活動の場、発表機会の創出	81.3	施策としては概ね適切であるが、芸術文化協会のほか、個人、団体問わずに支援活動の拡大を図られたい。	・プラザホールや関連機材の使用料が高く、気軽に使えない。活動の場や発表機会を創出するために、町内の育成団体・グループに対して大幅な減免をすべきである。
			フレンドリープラザの充実	81.3	施策としては概ね適切であるが、PRを充実させ、さらに施設機能を活かした、町民に親しみやすいプログラムを多く安価に提供されたい。	
			遅筆堂文庫の充実と利活用の推進	81.3	施策としては概ね適切であるが、文庫活用事業の定期的なPRを講じられたい。	
			町立図書館の充実	81.3	施策として概ね適切である。更なる図書の実績が求められる。	・読書こそが町民のレベルアップにつながるので、良い本を購入すべきである。

### 第3項 地域分権社会の推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
地域コミュニティの再構築	概ね順調	今後とも継続的な取組みが求められる。	地域自治再構築への支援	81.3	施策として概ね適切であり、今後とも継続的な取組みが求められる。	・地区でまちづくりをやってみたが、これまでの団体（自治会のように無くせないもの）を整理できず仕事が増えるばかりになっている。 ・地域自治発展のために適宜な指導により促進すべきである。 ・経営母体がまだ整っていない地区がある。
地域づくりの推進	概ね順調	政策推進を図るため 町民の理解の向上、支援制度の再検討を実施し継続的な取組みが求められる。	地区ごとのまちづくり計画（地区計画）の策定促進	81.3	施策として概ね適切であり、今後は町民の理解度の向上に向けた取組みが求められる。	・町民の一人まで理解なければうまく進まない。

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			地域自立支援制度の 確立・導入	81.3	施策として概ね適切であり、支援制度の再検討を行いながら、継続した取組みが求められる。	・「地域づくり支援事業交付金」の配分の一律性に問題あり、各地区の実態に促した配分とすべきである。
			地域づくりの核となる「人づくり」や地域実践活動の支援	81.3	施策としては概ね適切であるが、「人づくり」に対して具体的にどのように支援するのか明確でないので、早急に支援策を講じられたい。	・各地公民館内の事業に従事しているが、事務局やリーダーの育成研修など早急に行うべきである。
地域の宝を生かす活動の推進	課題あり	政策推進を図るために、具体的実効性のある事業展開を図られたい。	地域（人、物、歴史）を知る学習活動の促進	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。具体的な事務事業を設定し、取り組むことが求められる。	・各地域における「地域資源」を出して、「地域学習講座」的な事を関係機関でのサポートが必要と思われる。
			宝を磨くプログラムの実施	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。具体的な事務事業を設定し、取り組むことが求められる。	・宝を磨くことは金がかかることが多い。財政力がなければなかなか進まないのでは。 ・各地域における「地域資源」を出して、「地域学習講座」的な事を関係機関でのサポートが必要と思われる。

#### 第4項 交流の拡大

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
交流基盤の構築	課題あり	施策の更なる推進を図り、拠点整備・ネットワークの確立・情報提供システムの再構築を図られたい。	交流拠点の機能充実	68.8	施策として効率性に課題がある。「ふれあいの丘、であいの丘、憩いと学習の丘」を明確にし、実施の方向性で取り組むことが求められる。	
			交流資源の充実、ネットワーク化	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。施策を構成する事務事業を設定し、取り組むことが求められる。	・交流資源は「人」であり、あまり大上段にかまえず交流する中からネットワークが生まれるのではないかと。 ・地域資源の早急な調査から始めるべきである。
			情報提供システムの構築	81.3	施策として概ね適切であり、今後更なる充実を図られたい。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
地域間交流、国際交流の推進	概ね順調	民間レベルでの交流事業を含め現況を精査し、交流の主体・メニュー・対象の全体像を明確にし政策推進を図りたい。	各種交流事業の促進	81.3	施策として概ね適切であるが、今後民間レベルでの交流事業を含め現況を精査し、交流の主体・メニュー・対象の全体像を明確にし取組みを図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体を何かの方法で把握し、交流事業の進展に努めるべきである。</li> <li>全体の把握が必要。</li> </ul>
			自治体間、民間の交流連携の推進	81.3	施策として概ね適切であるが、今後民間レベルでの交流事業を含め現況を精査し、交流の主体・メニュー・対象の全体像を明確にし取組みを図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国川西会議・町田市の交流にとどまらず、他方面への拡大を望む。</li> </ul>
			国際交流の推進	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。日中友好の枠から脱却した広い視点での国際交流が求められる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中友好から国際交流への移行はよい方向であるが、相手国をどこにするのかなど先が見えていない。</li> <li>日中友好協会だけが国際交流ではなく、広くアジアや世界全体の考え方で進めていくべきである。</li> </ul>
交流人材の育成と川西ファンの拡大	課題あり	事務事業を再検討し、実効性のあるものとする必要がある。	交流人材の育成	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。構成施策を再検討し、実効性のあるものとされたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流人材の定義がはっきりしない。</li> <li>新たに人材バンクの登録者の募集により機能、活動できるように対応すべきである。</li> <li>各種交流をとおして人材が育成され、ファンが拡大するものと思われるので、交流機会（情報）の提供。</li> </ul>
			川西ファンの拡大	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。構成施策を再検討し、実効性のあるものとされたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京川西会だけにこだわっているように思える。他の切り口も探すべき。</li> <li>一般町民からの東京移住者への働きかけができないか。</li> <li>各種交流をとおして人材が育成され、ファンが拡大するものと思われるので、交流機会（情報）の提供。</li> </ul>

## 第5項 教育環境の整備・充実

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
教育内容の充実	概ね順調	政策推進を図るため「地域の特色」「新たな社会」などの文言の定義を明確にし、それに沿った事業展開を図りたい。	地域の特色を活かした教育の推進	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。構成施策を再検討し、実効性のあるものとされたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動がなぜ地域の特色として位置づけているのかわからない。</li> <li>地域の特色や人材を活かした教育は、保護者に負担が重くなるのではないか。</li> <li>部活に偏重し、地域を学ぶ機会が不足しているのでは？</li> </ul>

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			新たな社会に対応した学習体制の充実	81.3	施策としては概ね適切であるが、情報化に対応した教育の更なる充実が求められる。	・インターネットへの接続家庭は何%になっているか。どれだけ積極的に情報を取ろうとしているか、町民の情報化に対するバロメータとなる。そのことが教育にも反映されるのでは。 ・部活動と同じ対応で日常的に指導する。
			教職員研修、指導体制の充実	81.3	施策として概ね適切である。今後も更なる充実を図られたい。	・教職員の優秀人材により教育の充実が計られるので、財政難の中でも強く指導すべきである。
教育環境の充実	概ね順調	学区再編による教育環境の変化を精査し、併せて長期的な施設整備も勘案した政策推進を図られたい。	学習効果を勘案した学区の再編	75.0	施策としては概ね適切であるが、学区再編による教育環境の変化を精査し、併せて長期的な施設整備も勘案したものとされたい。	・小学校の統合でも高山や東沢など、必要に迫られたところから行っていくべきでないか。 ・少子化原因による学区見直しは当然であり、学区見直しに住理解を得られるように対応すべきである。 ・小中併設校の学習効果を評価、勘案されないまま学区の再編が進んでいる。
			施設の計画的な整備	81.3	施策として概ね適切であり、今後も計画的な整備が求められる。	・施設が経年損耗で学児が危険とならぬよう整備を進めるべきである。

## 第6項 生命の教育の推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
家庭教育力の向上	概ね順調	今後とも継続的な取り組みが求められる。	教育連携体制の構築	81.3	施策として概ね適切であり、今後も継続した取り組みが求められる。	・地域、家庭、学校、行政での連携が基本であり、確実に意見交換を行うべきである。 ・各地区内の連携体制は整っているか？

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			共育環境づくりの推進	81.3	施策として概ね適切であり、今後も継続した取り組みが求められる。	・PTAなどでも会合に出席しない家庭が問題をかかえている場合が多い。家庭まで踏み込めないジレンマがあると思う。それでも子供を通じてしか共育環境づくりはできない。 ・多様な家庭環境に対応すべく相談を充実させるべきである。
			地域子育ての意識づくりの推進	81.3	施策として概ね適切であり、今後も継続した取り組みが求められる。	・子供は宝であり、子育てリーダーの育成が最重要である。
こころの教育の推進	概ね順調	今後とも継続的な取り組みが求められる。	性の教育、いじめ、不登校への対応	81.3	施策としては概ね適切であるが、原因究明等、問題解消に向け更なる充実が求められる。	・不登校やいじめの原因を追究する事により、少しは防げるのではないか。
			生き抜く力の育成	81.3	施策としては概ね適切であるが、人命を尊重し、生きる喜びを与える教育も求められる。	・前施策の予防としての、一般児童、生徒に対するプログラムも必要では？
			食育教育の充実	81.3	施策としては概ね適切であるが、食育教育から地域の特性を活かした食農教育まで発展させる手法を講じられたい。	・日本人の主食である米食、農業の大切さを体験させ教育する。

#### 第7項 生涯学習・生涯スポーツの推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
学習推進体制の充実	概ね順調	現行施策には世代間交流、情報提供の視点が不足である。政策推進を図るため施策の再検討が必要である。	施設機能の充実	81.3	施策としては概ね順調であるが、各地区公民館は老朽化が進んでいるとともに、高齢者や障がい者に対してバリアフリーにはなっていない。センター化と合わせてどのようにしていくか改築計画の策定が必要と考えられる。小学校の統合が実現できれば校舎利用も検討されたい。	・生涯学習やスポーツが盛んに行われるよう、施設整備を計画的にすべきである。

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			交流による人づくりの推進	81.3	現行施策には世代間交流、情報提供の視点が不足している。施策構成を再検討し、実効性のあるものとされたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人式のことをいっているのではない。内部評価の2次評価を支持。</li> <li>世代間交流をリードする人物の選定と、住民が進んで参加できる体制作りのPRが必要である。</li> <li>情報提供の促進の項がない。今までやってきた事業をむりやり項目に入れ込んでいる感じがする。</li> <li>情報の発信、提供が不足している。出前講座、人材バンク等も含めて、あらゆる機会をとらえてPRすべきである。</li> </ul>
主体的な学習活動への支援	概ね順調	政策推進を図るため、学習講座のあり方や支援体制の再検討を実施し、さらに継続的な取り組みが求められる。	学習講座の提供	81.3	施策としては概ね適切であるが、各世代に応じた対応があるべきで、目的にあった学習の提供が求められる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>公の企画から一歩進んで、町民が企画した講座への支援もあってよい。</li> </ul>
			地域活動への支援	81.3	施策としては概ね適切であるが、学習講座のあり方や支援体制の再検討を実施し、さらに継続的な取り組みが求められる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特色は何であるのか、情報の提供が必要である。</li> <li>財政支援が不足。</li> </ul>
体力づくりの推進	概ね順調	政策推進を図るため、今後とも継続的な取り組みが必要であるが、関連する政策との統一・整合性がみられない。施策の再検討が必要である。	町民一人一体力づくりの定着	81.3	施策としては概ね適切であるが、健康増進につなげる視点が不足している。健康福祉課と連携した取組を講じられたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康福祉課との協働が行われていない。庁内の話し合いが必要。</li> <li>体育振興公社としての事業をより多くのPRの必要がある。</li> </ul>
			スポーツ機会の創出	81.3	施策として概ね適切である。今後とも継続的な取り組みが必要であるが、関連する政策との統一・整合性がみられない。施策の再検討を図られたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯スポーツの意義を町民にもっともっとPRすべきであり、参加人員の増加を拡大する。</li> </ul>
競技力の向上	概ね順調	政策推進を図るため、今後とも継続的な取り組みが求められる。	指導体制の充実	81.3	施策としては概ね適切であるが、今後とも一層の充実が求められる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者育成を完全にすべきである。</li> </ul>

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			ホッケー競技の振興	81.3	施策としては概ね適切であるが、まだまだホッケー競技に対する町民の関心度が低い。町民にさらに普及される取組みを展開されたい。	・ホッケー競技に対する町民の関心度が低い。各地区にホッケークラブができない。運動量の少ないユニホッケー等を普及させる方法もある。 ・川西町といえばホッケーというイメージになるように、競技者の指導も強化すべきである。
スポーツ環境の充実	概ね順調	利用者の利便性・安全性を最優先し、今後とも継続的な取組みが必要である。	施設管理、運営体制の充実	81.3	施策として概ね適切である。今後も利用者の利便性・安全性を最優先し、継続的な取組みが求められる。	・運営プログラムを発表し、住民の参加利用を呼びかけるべきである。
			施設の整備、充実	81.3	施策として概ね適切である。今後も利用者の利便性・安全性を最優先し、継続的な取組みが求められる。	・各設備の充実により、利用者が危険の伴うことの無いようにすべきである。

## 第8項 男女共同参画社会の推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
社会参加機会の拡大	概ね順調	男女共同参画の意義を再認識し、更なる政策推進を図られたい。	女性の活躍の場の創出	75.0	施策としては概ね適切であるが、男女共同参画の意義を再認識し、さらに実効性のある事業を展開されたい。	・婦人会等があるだけで、他の団体結成がない。
			政策、方針決定への男女共同参画の推進	75.0	施策としては概ね適切であるが、男女共同参画の意義を再認識し、さらに実効性のある事業を展開されたい。	・男女5対5になるのが理想、女性の参画を意識して促すべき。 ・役割分担で成り立つこともある。一概に男女5対5とはならないのではないかな。 ・女性の立場の町づくりの具体的なものがない。
働くための環境整備	概ね順調	政策推進を図るため、今後とも継続的な取組みが求められる。	安心して子育てできる環境の整備	81.3	施策としては概ね適切である。今後も継続した施策推進を図られたい。	・他市町で働いている母親の子育てサポートが必要である。



政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			女性の能力が発揮しやすい環境の整備	81.3	施策としては概ね適切である。今後も継続した施策推進を図りたい。	・内部評価の1次評価の地域社会の課題は「女性の活躍の場の創出」に記載すべきでないか。ここでは女性が働ける環境整備についてであり、事務事業としては適応するものがないのではないか。 ・行政を含めて、企業の責任や指導の民主的感覚（意識）の養成が大切である。
意識啓発及び推進体制の確立	概ね順調	男女共同参画の意義を再認識し、さらに実効性の高い施策を検討する必要がある。	男女共同参画意識の醸成	81.3	施策としては概ね適切であるが、男女共同参画の意義を再認識し、さらに実効性の高い施策を検討されたい。	・男女共同の意識が町民全体に届いていない。意識向上が重要である。
			男女共同参画社会実現のための推進体制の確立	81.3	施策としては概ね適切であるが、男女共同参画の意義を再認識し、推進体制の更なる機能強化を図られ、継続した事業展開を講じられたい。	・公募を増やすべきである。

### 第9項 自主・自律のまちづくりの推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
協働のまちづくりの推進	概ね順調	町民の理解を深め十分な効果を上げるため、今後より積極的な取り組みと施策の再検討が必要である。	川西町まちづくり基本条例の啓蒙	75.0	施策としては概ね適切であるが、町民の理解を深め十分な効果を上げるため、今後より積極的な取組みと施策の再検討を図られたい。	・まちづくりの基本である条例を全町民が深く理解し、その趣旨に副って共に発展するように啓蒙すべきである。当町職員だけの理解だけでは発展しない。 ・町民の理解がまだまだ不十分。住民の自治意識を高めるため啓蒙活動は重要。
			情報の共有化、広報・広聴活動の推進	81.3	施策として概ね適切である。住民の関心を持っている情報を常時発信し、町民が常に町行政に関心を持つように対応されたい。	
			NPO、ボランティア団体等の育成支援	81.3	施策として概ね適切である。今後も継続した支援とPRを講じられたい。	・NPOやボランティア団体の活動内容を定期的に紹介もほしい。 ・NPOの意味を理解するようにPRと指導を進めるべきである。

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			子どものまちづくりへの参画	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。構成事務事業を再検討し、早急な事業展開を図られたい。	・中学校がない地域ではなかなか中学生を活用するのが難しくなっている。また、部活で忙しい状況でもあり、学校の協力が不可欠である。 ・一部地区にとどまらず、地区全体が取り組むべきである。
行政経営システムの確立（役場改革）	概ね順調	本政策の意義を十分に認識し、常に点検評価を繰り返しながら、改善姿勢をもって取り組む必要がある。	川西町集中改革プランの実施	93.8	施策として適切である。本施策の意義を十分に認識し、常に点検評価を繰り返しながら、改善姿勢をもって取り組まれたい。	・プラン毎の改革の異なるのはもうやむを得ないが、その取り組みが確実に行われる事を期待する。
			行政評価システムの導入	87.5	施策として概ね適切である。本施策の意義を十分に認識し、常に点検評価を繰り返しながら、改善姿勢をもって取り組まれたい。	・システム導入により行政改善が実行されるべきである。
			環境マネジメントシステムの推進	81.3	施策として概ね適切である。本施策の意義を十分に認識し、常に点検評価を繰り返しながら、改善姿勢をもって取り組まれたい。	・環境、行政マネジメントシステムの活用推進が必要である。
			職員の資質向上	81.3	施策として概ね適切であるが、職員の資質を向上させる事務事業を再構築し、着実に進められたい。	・言われたことを実現する職員から自ら企画し実現できる職員が求められている。事業評価とも職員評価も内部で行い昇格に反映すべき。 ・新研修計画に基づき職員資質をより一層高めるべきである。
広域連携の推進	課題あり	両施策ともに調査研究の情報開示を念頭に置き、町民におよぶ利益・不利益を十分に説明する必要があり、施策の再検討が必要である。	行政サービスの広域化と広域処理	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。調査研究の情報開示を念頭に置き、町民におよぶ利益・不利益を十分に説明する必要があり、施策の再検討を講じられたい。	・広域行政を行った場合の効果や不利益について公表すべきである。 ・広域化が町、住民に対してサービスとなるなら、他の部分の広域化も進めてもらいたい。 ・分野別進捗状況の把握。広域処理による住民負担の軽減を期待している。
			市町村合併に関する調査、研究	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。調査研究の情報開示を念頭に置き、町民におよぶ利益・不利益を十分に説明する必要があり、施策の再検討を講じられたい。	・合併を行った場合の効果や不利益について公表すべきである。 ・合併が町民に対してどのような事になるのか等、将来のことを判断できるような調査研究を徹底して説明し、町民も賛意できる指導をするべきである。 ・合併した場合の想定されるメリット、デメリットを公表してほしい。